

## 安全・危機管理ワーキンググループ 議事概要

2014年6月13日

文責：平井 昭光

日 時 : 平成26年6月13日(木) 18:30~20:30  
場 所 : 株式会社トーヨーアサノ6F会議室  
出席者 : 坂谷理事、守本理事、剥岩理事、川北理事、鈴木一行国際委員、大坪安全委員長、平井理事  
寺澤JSAF事務局次長  
合計8名

### 議事概要

#### 1. 理事の責任について

- ・平井から、前回の宿題について以下の通り説明した。

訴訟のリスクの件については、グアムレースの被告はNORCであってNORCの理事ではなかったと思われる。レース運営における管理責任ということで、訴訟が提起されているものと思われる。よって、JSAFの理事が訴えられる、というのはかなり特殊なケースとなるだろう。

しかしながら、万が一に備えて理事が賠償責任保険にはいるということは意味があると考えられる。これは通常の会社の取締役と同様である。

次に、内部統制の件については、これはJ-SOCSやコンプライアンスの事を考えておられるのではないか、と思われる。JSAFの理事や事務局が違法行為をして、社会的に糾弾されることを防ぐためにはこのようなコンプライアンス推進活動は大事であろう。その意味では内部通報制度も必要となる。しかしながら、本WGのタスクである危機管理のコア部分ではないと思われる、また、JSAFのような小さな組織（事務局は極めて小さいし、理事はほとんど非常勤）では、余りガチガチにコンプライアンスを行うと却っておかしくなるので、バランスが大事だと思われる。

加盟団体への訴訟については、法人格があろうとなかろうと、まずは「団体」が被告となる可能性が高い（法人格なき社団も被告となり得る。）。また、理事の不法行為が認められれば、理事も被告となる。この点はJSAF本体と同様である。ただ、レース運営が多いので、JSAFよりも加盟団体の方が訴訟のリスクは高いかもしれない。

最後に、現在、JSAFと加盟団体との間に契約はなく、加盟申請と承認の関係だけかと思われる。よって、今後、両者の間での契約を整備することも必要かもしれない。

- ・坂谷理事：主催団体の責任について、仮にカテゴリーを低くしてレースをやった場合にはどうなるのか？インスペクションを行うことと、主催団体の責任の関係はどうなるのか？
  - ・海外の状況について調査が必要ではないか。
2. 事故の責任は、船のオーナーといわれている。しかし、RYAの規定ではオーナーではなく、スキッパーの責任と書かれている。「オーナー」の責任について、どのように考えたら良いのか。
  3. 民事訴訟と海難審判
    - ・NORC時代の事件では、オーナー及び国に請求がなされ、和解が成立した。
  4. フリーディスカッション
    - ・加盟団体の責任について、JSAFがどのくらい責任を負うのか。原則は主催者たる加盟団体の責任。JSAFはアドバイザーに過ぎない。

- ・ JSAF が主催しているにも関わらず、その意識が低い。他方、JSAF が指導しているにも拘らず、しっかりその通りやらない団体が多い。
  - ・ レーザーワールドは、ワールドが主催する。JSAF が共同主催する意味が少ない。ワールドはIJ が仕切る。国内のIJ はチェアにならない。
  - ・ J系のレースでは、基本的に共催はない。国体などはJSAF が主催。JSAF のキーのメンバーが入って動いている。人を送り込むことでリスクヘッジしている。
  - ・ 外洋系のレースでは、主催であるにも拘らずほとんど関与しない。
  - ・ 主催の定義は？きちんとコントロールする場合に限定すべきではないのか？
  - ・ 共同主催の意義についても考え直すべきでは。
  - ・ 提言
    - ①スキッパー責任の規程を設ける。
    - ②主催、共同主催の定義の再確認を行う。外洋会議で議論することも必要ではないか。
    - ③JSAF と加盟団体間の契約の策定
    - ④理事保険の検討
    - ⑤主催者保険 1 事故 3 億  
国体の場合の保険は？総務委員会の中で検討する。
  - ・ スポンサーは一切責任がない。
  - ・ 後援や公認の場合には責任があるのか。定義をチェックする。レース委員会のウェブにある。
  - ・ 各団体が、主催などの意義を理解すべき。
  - ・ 契約があれば、加盟団体に一定の基準を満たす事故を報告するような義務を入れて、情報を上げてもらうこともできる。そして、それを分析して今後のNAとしての安全啓発につなげることもできる。
  - ・ 強化委員会から報告
5. 次回への宿題： スキッパー責任の整理、主催等の定義と運用、加盟団体との覚書イメージ作り。
6. 次回開催日は以下の通り。  
7月30日  
場所は、トーヨーアサノ 6階会議室とする。

以上。